

自動走行ロボットの社会実装に向けた官民協議会（仮）設置趣旨

令和元年 6 月

経済産業省 物流企画室

協議会の趣旨

〇EC の発達・ドライバーの高齢化等を原因として、日本の運送事業は現在物流クライシスとも揶揄される状況。特にラストワンマイル配送は、多くの工数がかかっており、人手不足の原因となっている。現状を解決する手段として、海外では社会実装の進んでいる自動走行ロボットに期待がかかっているが、子供や高齢者との共存等の社会受容性、必要なルールの在り方等、検討すべき事項が存在。また、自動走行ロボットの市場は各国で立ち上がっている段階であり、国内外の有力なメーカーは展開すべき市場の見定めを行っているところ。日本の市場としての価値を下げないためにも、早急な社会実装が重要。

〇自動走行ロボットの社会実装に向けたインフラの整備の最短距離での実現を目指し、ロボットの利活用者である運送事業者・サービス・デベロッパーや自治体等とロボット供給者である国内外のメーカー、ロボットが歩道を走行した場合に大きな影響を受ける歩道利用者の代表、法規制等を所管する関係省庁を集めた官民協議会を立ち上げる。

〇官民協議会では、特に以下のような内容に焦点をあてつつ、自動走行ロボットの社会実装に向けた検討を進める。

＜社会実装に向けて官民協議会にて検討していくべき論点案＞

- ・安全性の確保・安全性の確保に当たった役割分担の整理
- ・ユニバーサル性の確保（交通弱者への配慮）
- ・マップ等のインフラの整備（協調領域の検討）
- ・事故時の法的責任分界点の整理

等

検討スケジュール（案）

〇準備会合：令和元年 6 月 24 日

〇第 1 回：令和元年 8 月頃

〇第 2 回：令和元年 10 月頃

〇第 3 回：令和元年 12 月頃

〇第 4 回：令和 2 年 2 月頃